

第20回パートナー会議議事録

開催日時: 11月17日(土) 13時～

1) サロン 講師 神田 忠起 様

PT. TOA GALVA INDUSTRIES (T G I)

TOA株式会社(当時東亜特殊電機)とインドネシアの GALVA 社との合弁企業で100%TOA 商品を生産

・インドネシア共和国

国旗



国章



人口 2億3千7百万人 (4位)

面積 191万931km² (15位)

長さ 5,110km

島の数 1万8千110

1) 唯一神への信仰

(イスラム以外でもよいが無宗教は容認されない)

2) 人道主義

3) インドネシアの統一

4) 民主主義

5) インドネシア全国民への社会主義

・インドネシアの食べ物



ナシゴン



サテアヤム



ソトアヤム



バソ

・ジャカルタ(インドネシア首都) ・・・・ 大都市



ジャカルタは巨大な都市、かつ大規模なスラム街も多数存在するので、滞在中は十分注意する必要がある。また、テロ行為も起きているので、多くの人々が集まるショッピングセンターなどでは周囲の状況に十分注意すべきである。イスラム教徒が圧倒的多数を占める都市なので、女性は服装に留意する必要がある。

出典：<http://wikitravel.org/ja/%E3%82%B8%E3%83%A3%E3%82%AB%E3%83%AB%E3%82%BF>

・TOA インドネシア会社設立の歴史

1975年会社設立

1976年工場稼働

設立理由

東亜特殊電機(日本)からインドネシア向けの輸出比率が高くドル箱であった。しかし完成品輸入禁止とか関税の引き上げが有り、商社や現地代理店任せでは売り上げが伸び悩み、現地生産が必要となった。当時日本からは住友商事、メルバブ貿易、丸福商事等数社を経由して輸出していた。現地代理店も多くあり問題(在庫と価格)が山積していた。

・当時のインドネシアの法律で会社設立15年で資本をインドネシア側に51%以上渡すことが義務付けられていた。(各社は何かと理由を付けて延ばしていた)

・1987年TOAの専務がインドネシア側とインドネシアの規則を順守すると約束。

・1975年当時は1円3ルピア程であったのが、1987年では1円13ルピア程度にルピア安となっていた。

・日本の他の株主は株をインドネシア側に譲渡するのを反対、問題がこじれていた。

・15年ルール問題と今後のTGIの方向を現地に行き決めていくように指示があった。

・1988年5月に現地赴任。

・15年ルール遵守するための対策

・日系各社に為替損を発生させないよう株式の譲渡をせず、増資をしてその増資分をインドネシア側に出資させ結果として51%インドネシア側の持ち分とすることで各社と調整。

工場を増築

・粉体塗装装置の導入

・インジェクションマシンの導入。

・ホーンスピーカのへら絞りとプレスでの製作を出来るようにプレス機の導入。

・スピーカーの心臓部であるダイヤフラムの製作。

・日本人家庭の家賃節約のため社宅を購入。

・開発部門の設置

・無響室の自作

・管理の合理化

・アジア通貨危機(暴動・ルピアの暴落)

航空写真

旧工場



神田さん ウリプトさん（インドネシアのパートナー）

増築した新工場



開催日 2012年11月17日(土)

討議：

事業発展の成功例をうかがい知ることができた。

・インドネシア国旗はメラプティ旗 (merah putih) と呼ばれる。Merah は‘赤い’、putih は‘白’の意味という。

・パンチャシラと呼ばれる皆で助け合う、皆平等、を基本とする5つのイデオロギーがある(日本も第二次世界大戦直後は日本国民は同じ行動をしていた)。

・オランダの植民地するとき、日本が追い出して国を盛り立て歴史があり、親日派の国である。

・右手は尊いとされ、左手は穢れている、汚いという考えがあり、現地人との接触時には十分気を付けなければならない。

・1975年に設立のPT. TOA GALVA INDUSTRIES (T G I)は、1976年に工場稼働開始。当時TOA(当時は東亜特殊電気)はモスクへ納めるトランペットスピーカーの輸出をしていたが、商社の中間マージンが大き過ぎ、将来的には競争力が失われることを憂い、状況改善のため、工場設立に至ったという。

・TOAとインドネシアのGALVA社の合弁会社(資金は100%TOA収支)を設立、拡大した。1987年に約束した15年ルール遵守の役とともに、1988年に赴任(神田氏)。

・当時、会社には商品搬出のための道路が細く20フィートの小型コンテナしか運び出せず、これから力を入れる輸出にマイナス影響があると判断、40フィートコンテナの通れるよう敷地の買収がポイントであった。年をかけて土地を買収し道路確保した。

・代理店販売から直販へ

部品は当時すべて日本から輸入に頼っており、商社は5%とるので円高もあり競争力無。すべて部品の自作(自社生産)を決断するに至った。

・工場の運営、紛体塗装、インJECTIONマシン、プレスの導入、ヘラ絞り(トランペットスピーカー)、ダイアフラムの製造(フェノール樹脂からポリイミドへ・・・固く耐熱接着困難のすべてを改善・・・ポリ意味の接着は、大量生産では化学処理が定番だが、少量生産には適さず手加工で表面を荒らす方法で成功した)

・開発部門の整備：

開発を日本に(本社開発部門に)頼って先行き心細く、無音室まで自作した。

(追補)

15年ルール：

2011年での15年ルール対応：

・100%外資企業は創業後15年以内に株式の一部をローカルに変更しなければならないとあるが、そのまま100%外資が認められた企業もあり、細則がはっきりせず、かつまた、政府対応もはっきりしていない。

・1994年政令第20号で外資100%の会社設立が認められたが、併せて外資100%企業には商業生産開始後15年以内に株式の一部をインドネシア人またはインドネシア法人に売却する義務（「ダイベストメント義務」或いは「15年ルール」）が規定された。この義務は現在も有効であるとされているが、商業生産開始後15年目を迎える企業も出てきているが、「株式の一部」等の具体的な規定内容が明示されていないなど運用手続が不透明となっている。

<http://www.jmcti.org/mondai/pdf/p109.pdf>

3) 次回開催日の予定

4) 12月は工場見学と忘年会。

見学：川崎重工 明石工場

開催予定日 12月12日(水)

忘年会：レストラン一喜

(<http://tabelog.com/hyogo/A2803/A280302/28027137/dtlrvwlst/1993204/>)

5000円 + 飲み代

5) CISホームページ URL

<http://www.cis-laboratories.co.jp/>

以上